紙相撲新聞
第163回本場所
四～五日目号
編集・発行
日本紙相撲協会

若ノ嶋 復活？ 5連勝

難敵綱乃花を下し三役以上で単独全勝
1敗で千代鈴、西神門、鬼ヶ嶽らが追走

【第百六十三回本場所四日目～五日目】

10月というのに残暑でまだまだ暑い中、四日目、五日目が開催され、横綱若ノ嶋と前頭六枚目照の王という11、5回初土俵の最古参同期ライバルの2人が5戦全勝とした。

若ノ嶋の初日からの5連勝は3度目の優勝を飾った153回以来。この時は7連勝した後、八日目に唯一の黒星を鬼ヶ嶽に喫している。照の王は場所前の稽古総見で特に目立ってはいなかったが、場所に入って身体がよく動いているようだ。

↑五日目、ここまで4連勝と引退説を払拭し、快進撃を続ける若ノ嶋は同じく4連勝と好調の綱乃花を力相撲で堂々寄り切り。まさかの5連勝で場内大興奮だ。

↓四日目、勝利への執念を見せる若ノ嶋は立ち合いまさかの変化相撲で白星。なりふり構わない相撲はある意味感動すら覚えるかも。

これを1敗で追うのは横綱千代鈴、大関西神門、関脇鬼ヶ嶽、平幕の綱乃花、鉄甲、英筏、出羽翼、六歌仙、若巨の9人。

先場所、負け越せば引退という覚悟で進退を賭けて臨み、千秋楽に辛くも勝ち越して引退を留まった若ノ嶋。今場所もどうかと危ぶまれたが、いい出足を見せて3連勝と好スタートを切った。

四日目は初顔の夢ノ花。今場所は新小結として春ノ翔、西神門を破って勢いに乗っている。勝負は若ノ嶋が前へ出るも掴まえきれずに取り直しに。取り直しの一番は若ノ嶋が立合い当たるやすぐに突き落としを見せると夢ノ花が土俵に付き、あっけなく勝負が決まった。

五日目は難敵綱乃花。対戦成績では2勝1敗と勝ち越しているが、場所前の稽古総見では綱乃花に圧倒されていた。

しかも、今場所の綱乃花は二日目に大神楽、昨日は千代鈴と2横綱を倒して4連勝と絶好調。

綱乃花○（押し倒し）●千代鈴

「もし若ノ嶋と春ノ翔にも勝って4横綱総なめともなれば、一場所で金星4個と、おそらく永久に破られることにない記録を打ち立てることになるよな！」と鹿賀乃戸親方。五日目一番の注目の取組は、若ノ嶋が差せないとみるやのど輪で攻めて綱乃花を向正面に押し出した。

「若ノ嶋！強い！」と一斉に声が上がる。

「若ノ嶋、優勝かぁ？」との声に、「まだ五日目で、これから上位戦だからね。」とうれしさの中にも気を引き締める錦風親方。「先ずはあと一番勝って勝ち越しだ！」と錦風親方は気合いを入れ直していた。

若ノ嶋とともに初日から3連勝の横綱千代鈴だったが、四日目に綱乃花にまさかののど輪で初黒星を喫した。「のど輪にこられたか！」と敗因を振り返る春日根親方。五日目は勝ノ川に完勝し連敗は免れた。

千代鈴○（寄り切り）●勝ノ川

休場明けで進退を賭けて土俵に上がる横綱春ノ翔。四日目は小結四季嶋に左を差される展開となり、そのまま寄り切られて痛い2敗目を喫した。

烏帽子●（寄り切り）○春ノ翔

新横綱の大神楽は四日目に先場所敗れている関脇鬼ヶ嶽に苦戦し、取り直しとなったが、取り直しの相撲で勝って難敵を退けた。

四季嶋○（寄り切り）●大神楽

2場所連続で9勝をあげて久し振りに関脇に復活した鬼ヶ嶽。四日目は敗れたものの大神楽を苦しめると、五日目は夢ノ花に勝って4勝1敗。今や大関獲りの一番手につけていて、横綱大関にとっては怖い存在。

夢ノ花●（押し倒し）○鬼ヶ嶽

ところが、五日目に四季嶋に一方的な電車道で敗れて早くも2敗となった。「新横綱としてのプレッシャーがあるんじゃないか？」と錦風親方。「初日の土俵入りから今ひとつ調子が戻ってないんだよね！」と心配する磯ノ海だった。

鬼ヶ嶽●（寄り切り）○大神楽

連敗は許されない五日目は対戦成績が5勝5敗と五分の関脇烏帽子岳だったが、なんとか勝って3勝2敗と白星を先行させた。

平幕では若ノ嶋とともに最古参、年齢では若ノ嶋より2歳上で現役最年長の照の王が5連勝。

かつて「青木道場」で猛稽古を積み、11、5回にともに幕下付出しで初土俵を踏んで以降、抜きつ抜かれつ出世争いを繰り広げ、ともに大関として横綱を目指した若ノ嶋と照の王。